

いま曾於市の子どもたちへできること

今の子どもたちはいじめを含む悩みごとの相談を誰にしているのでしょうか？

コロナ禍以前のNHKの調査によると中高生の50%以上が友達と答えています。次いで母親、兄弟、父親、学校の先生、先輩という順に相談しているようです。小学生を対象とした調査では50%以上が母親、次いで友達となっております。そんななか小学生の10人に1人、中学生が6人に1人が誰にも相談しない・できないと答えています。

悩みごとで一番多いのは「勉強に関すること」次いで「人間関係」となっています。

大人は時に「子どもが自らの力で困難を乗り越えてほしい」という願うことがあります。しかし子ども達は人間関係や勉強、家の困りごとなど色々な辛さや困難を抱え、それでも歯を食いしばり保護者に心配をかけまいと登校することがあります。それに「気づき・受容し・寄り添い」そして「温かく・安心で安全」な環境を作っていくにはどうすればよいでしょうか？

まずは安心して相談できる（助けて！と言える）環境をつくりませんか？

SOS の出し方と受け方

出し方

子どもが大人に相談するには

- ・本当はもっと早く相談したかったんだけど…
- ・今自分がどうすればいいかわからなくて…
- ・ちょっと話しづらいことなんだけど…



第1歩
不安を伝えて

受け方

大人から子どもへ声のかけ方は

- ・どうしたの？
- ・何か辛そうに見えるけど大丈夫？
- ・何か悩んでいる？ よかったら話して
- ・何か力になれることはない？
- ・いつもと違うけど何かあったの？

まずは聴く



寄り添い

大人から子どもへ寄り添うには

- ・辛かったね・大変だったね
- ・よく耐えてきたね
- ・今までよく頑張ってきたね
- ・よく話してくれたね
- ・あなたのことが心配だよ

NGワード

- ・頑張り
- ・命を粗末にするな
- ・そのうち何とかなるよ
- ・周りが悲しむよ

- ①自分で抱えこまず誰かに相談しよう
- ②信頼できる大人を頼ろう
- ③あなたは絶対に一人ではありません

子どもも大人も
自律…「助けて」と言える
共感…「助けて」に寄り添う

ご協力をお願いします

学校は子どものSOSの早期発見・未然防止に取り組んでいます。しかし見守りは完全ではありません。辛い思いをしている子どもを知っていたら学校・市教育委員会・市立図書館内のふれあい教室にご連絡ください。